概　要　報　告

実施期日	８月５日(月)
部　会　名	小学校　総則部会

神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『ともにのびゆく長後っ子　～関わり合い、伝え合い、学び合い～』

提案概要

提案者の勤務校における学校教育目標、教職員の願い、そして学習指導要領との関連を踏まえ、児童の実態にそくしたかたちで取り組む研究、およびその過程についての提案であった。以下が主な取り組みである。

【実践に向けての課題意識】

出発点として、低学年、中学年、高学年に分かれ、児童の実態について学習面や行動面など、全教職員が協議を行った。学校教育目標、教職員の願い、そして学習指導要領との関連を踏まえ、低学年では「関わり合い」、中学年では「伝え合い」、高学年では「学び合い」を重点目標とし、実践を行った。

【実践の概要】～学校全体で取り組むための手だて～

（１）願いや狙いを児童と共有するため、児童と話し合い掲示物などを作成した。

（２）具体的な期待する子ども像を検討し、まとめた。

（３）指導案と研究協議。研究授業の指導案に「研究テーマとのかかわり」という項目を設け、どんな姿を期待しているのか、そしてそのための手だてを明確にした。

（４）年間でPDCAを意識した実践を行った。チェックとして、①児童の変容を検討し、②学びのアンケートを行った。またそれを受けて、③再検討を行った。

【成果と課題】

成果について、教職員にとっても様々な教科で、関わり合い、伝え合い、学び合いの実現につながるとともに、ポスターやのびゆくすがたなど教職員が共有できるものを創り上げたほか、アンケートを用いて、児童の変容から手立ての効果等を検討できたことが挙げられる。

さらに、今年度は、「４月からグループ活動が進めやすい。」「互いのよさを認め合うことが上手」など前年度の積み重ねを実感できるようになった。

課題については、各学年でもっと横につながって継続的な実践が望まれること、研究授業だけでなく、日ごろの実践の過程をもっと重視していくことが、今後の課題としてあげられるほか、関わり合い、伝え合い、学び合いの捉え方で児童と教職員の間に差異が見られたため、期待する姿に児童が迫ったとき、教職員が適切に評価をする必要があると考える。

質疑応答

Q　３年間、低中高のブロックに分かれて実践をしてきたこと、またそれぞれのブロックで土台となる共通点があったことが理解できた。例えば低学年から中学年、中学年から高学年に上がるときに、今まで成果を感じられたことはあるか。

A　成果や積み上ってきていると感じられる変化が見られたのは、研究３年目・本年度になって初めて教職員から声が上がった。私自身も３年目になって積み上がってきていることを感じた。今後、そうした声がより多く出たり、成果が見えたりすると素敵だと考える。

Q　教師と子どもで、学び合いにおける意識のずれがあると言われていたが、具体的にはどういうことか。

A　子どもが発表を行う前にグループでリハーサルを行い、アドバイスを出し合った場面について、適切にアドバイスを出し合っていたグループが１つあり、そのグループがきっかけとなり、他のグループの発表内容もすごく上がりました。育成したい力に向かえたその瞬間のことを子ども・授業者ともに共有・実感ができた。その時は、教師と子どもとの間で学び合いの意識のずれはなくなり、学び合いが顕著に感じられた瞬間であった。

協議の柱及び協議概要

明日から学校で活用できるような情報交換をグループで親しく行ってもらうということを目的とし、話し合いを行った。

まずは柱１「自校で取り組んで効果をあげたグループワークの実践例とその理由」について、グループで２０分間話し合い、その後、司会者の方からの指名により、グループで話し合ったことについて簡潔に紹介をした。

〈グループ①〉

情報共有を各学校でどのようにしているかについて話し合った。また、学校で活用しているＩＣＴ機器やiPad、ロイロノート、Googleチャットなどについても話し合った。ＩＣＴ機器については、メリット（一覧性や効率の良さなど）・デメリット（静かになりがちで、授業として盛り上がっているかどうかわからない）があるという意見があり、iPadを活用して出てきた意見をさらに議論してつなげていったりすると、より深い学びになるのではないかという意見も出た。

柱２「主体的・対話的で深い学びに向けて学校全体としてどんな取り組みをしているか」についてグループで話し合いを行った。

〈グループ②〉

授業での発問、問いの質が大事だという意見が出た。その問いの質によって、子どもが話しやすいか、活発になるか否かが変わってくると感じている。また教師が喋りすぎない、教えすぎないという話題も出た。各校が実践している中では、毎時間の授業で授業の流れを黒板に記していること、学校独自の学びのプランを子どもたちと共有をしていること、また話し方・聞き方などを子どもたちと共有している学校もあった。

〈グループ③〉

深い学びは、子どもたちが最初は分からないことでも、少しずつ徐々に分かっていく過程かと思う。

話し合い、意見をまとめたり、自分の考えを作ったりすること。そうした深い学びに到達できるような授業をしていくことが大事だと考える。また学習環境を整えることも日々実感している。

〈グループ④〉

各学校にＩＣＴ機器が入ってきて、教師も子どもＩＣＴ機器を使えるようになってきているが、果たして深い学びにそれらを活用できているのか、その検討も必要だと思う。個人的には、ＧＩＧＡ構想の２段階目に入っているのかなと感じている。深い学びにデジタルデバイスが寄与できているのか、アナログの良さやデジタルの良さ、またそれぞれのデメリットを理解しながら、子どもたちがその時その時に選択・判断できるように育ってくれれば良いと思うとともに、育てていく必要があると考える。

まとめ概要

子どもを主語にすること、子どもの思いを大切にすることが今後も重要である。目的を明確にし、教職員全体で共有することが大切である。長後小学校の実践は、学力面だけでなく、情緒面でも価値ある実践であったと感じる。子どもの思いについて実践を通して大切にしていた。授業も何度か参観する中、子どもたちは、知りたい・分かりたいという思いから学びにしっかりと向き合い、話したい・聞きたいという姿勢も十分に感じられた。学習指導要領解説の総則編の中にも示されている通り、主体的・対話的で深い学びは、１時間でできるものではなく、年間・単元を通した見通し、学習の振り返り、学びによる変容を子どもたち自身が認識すること、学びの深まりをつくりだすために，児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか，といった観点で授業改善を進めることが重要となる。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考える必要がある。

具体的な授業の在り方は，児童生徒の発達の段階や学習課題等により様々であり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した学習を行うにあたり、児童生徒の実際の状況を踏まえながら，資質・能力を育成するために多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要となります。

主体的・対話的で深い学びの実現は，バランスある資質・能力の実現につながり，さらには生きる力を育むものである。